

言語・文学委員会 人文学の国際化と日本語分科会

第 25 期 第 1 回分科会 議事要旨

開催日時：2020 年 11 月 29 日（日） 15 時～16 時 50 分

開催場所： Zoom でのオンライン開催

参加者（敬称略）：窪菌晴夫、田口紀子、竹本幹夫、巽孝之、沼野充義、日比谷潤子、
松森晶子、米田信子

議題

1. 第 25 期の委員長、副委員長、幹事（2 名）の選出
2. 各ワーキンググループ（以下 WG）の検討結果について
3. 提言の内容と次回の分科会について

議事内容

1. 今期の委員長には竹本委員、副委員長には窪菌委員、幹事（兼書記）には桑原委員（後刻、意思確認済）と松森委員を、それぞれ選出した。議事録作成は松森幹事と桑原幹事の分担とした。

2. 2 つの WG のこれまでの討議結果を確認した。

WG2 は以下を提言に盛り込むことを決定したことが報告された。①英語によるアカデミックライティングとアカデミックプレゼンテーションについてのカリキュラム構築、②若手研究者の口頭発表の場の確保、③若手研究者の海外向け論文発信の機会とそのサポート体制の拡充。なお提言作成に向け、①は日比谷委員と米田委員、②は窪菌委員、桑原委員、松森委員、③は窪菌委員、松森委員が、それぞれ分担して情報収集・執筆を行うことが報告された。

一方 WG3 では、**Japan Studies**（学術データのアーカイブ化と、そのデータをワンサイトで把握・検索できるプラットフォーム）の構築を、提言内で提唱することが報告された。

3. 以上を踏まえ、提言内容と今後の活動方針について審議した。今回の分科会では、主として WG3 の討議結果について詳細な検討を行った。

(1) **Japan Studies** の具体的なコンテンツについて：

- ・今回の提言で提案する **Japan Studies** の具体的なコンテンツについては、今後の慎重な検討が必要である。
- ・現在、国立国会図書館が開発・運営している **Japan Search** というプラットフォームがある。これについての報告が、田口委員からあった。

- ・ Japan Search は、exhaustive なデータベースをあらたに構築することを目的としたものではなく、むしろ既存のデータベースをつなげて、ワンサイトで利用可能にすることを主眼としたものである。(田口委員)
- ・ 現時点では、(人文学研究に) 必要とされる情報が、すべてデジタルコンテンツ化されているわけではない。データベース化すべきコンテンツの具体的内容と、その対象範囲について、今後(本分科会で) さらに考えていく必要があるだろう。
(竹本委員)

(2) 著作権の問題について :

- ・ 絶版のもの・著作権が切れたものについては、自由にデータベース化する動きがある。
- ・ CiNii がデータベース化する際に、著作権の問題については、ある程度、解決済ではないか。

(3) 今後の活動方針と次回の分科会について

- ・ 現在日進月歩で進んでいる (Japan Search をはじめとする) デジタルコンテンツ化の新しい情報を十分に踏まえたうえで、今回の提言を行う必要がある。
(竹本委員)
- ・ まずは現時点でどのようなアーカイブが存在するのか、という調査から開始する必要があるだろう。(窪菌委員)
- ・ CiNii の中・長期の計画についても、把握しておく必要がある。(窪菌委員)

- ・ 以上を踏まえ、早急に(1月~2月ごろ)分科会を開催して、以下の協力者に依頼しヒアリングを行うことを審議・決定した。

- ① 国会図書館の Japan Search 担当者 : 河口由佳氏
- ② CiNii のアーカイブ化の担当者

4. その他

- ・ 次回の分科会の日程については、まず9人の分科会メンバーの都合のつく日程を調整し、そのうえで上記の協力者に打診することとなった。そのために、まず分科会メンバー内でアンケートをとり、その候補日を決めることとなった。(アンケート担当は米田委員)
- ・ 今期(25期)のできるだけ早い段階で本分科会からの提言を出すという方向で、活動を進める必要があることを確認した。
- ・ WG3 は、提言に向けて委員内の役割分担を行う必要があることを確認し、1月中旬にWG会議を行うこととした。WG2 は決定された分担に従い作業を進めることとした。

以上

(文責 : 松森)